

千里シリーズ2023

同じ相手に2度は負けない
杉原選手完全優勝で決着！！



杉原陽一（レギュラーシーズン優勝）

V S

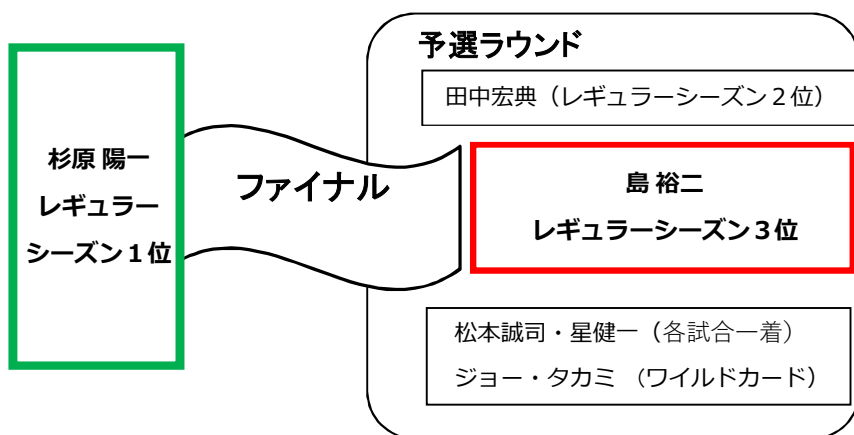
島裕二（シーズン3位で選出）

阪神・オリックスの同時リーグ優勝に沸く10月。野球の日本シリーズより一足早く、WBF2023千里シリーズが、10月8日（土）、VEGAボウル曽根（大阪会場）と高田馬場グラウンドボウル（東京会場）で同時開催された。

レギュラーシーズンを代表して登場するのは杉原選手。千里シリーズは実に11回目の出場となる。しかも、うち7回勝利の実力者は今期いっそう安定感が増し、付け入る隙はないように見える。昨年のリベンジなるか。

大阪・東京の二元同時投球となった予選ラウンドは、当初の下馬評を覆して島裕二選手が勝ち抜きを決めた。「曽根はアウェー」と称する昨年のチャンピオンは、こちらも昨年以上に着実に力をつけてきている。

奇しくも昨年と同カードになった千里シリーズ決勝ラウンド。シーズン勝者は予選通過者に勝てないというジンクスが直近続いており、昨年もその沼からは脱せずにはいたが、果たして。杉原選手が得意のストライクラッシュで突き放すか、昨年同様ハンデ差を活かして島裕二選手が逃げ切るのか。雪辱か返り討ちか。2023年最後の戦いが始まる。



2023 WBF Championship “Senri-Series”

●予選ラウンド

島裕二選手ワイルドカードからファイナル進出！

まずはレギュラーシーズン制覇の杉原選手が待つファイナルラウンドの挑戦者手を決める予選ラウンドである。

大阪会場には島裕二選手（シーズン3位）、松本誠司選手（第6戦1着）、ジョー・タカミ選手（ワイルドカード枠）の3名が、東京会場には田中選手（シーズン2位）、星選手（第7戦1着）2名が集まり、計5名による2ゲーム制ハイゲーム勝ち上がりの試合が行われた。

戦前の下馬評では、ここ一番の爆発力に定評のある田中選手、暫定ハンデで有利な星選手、関東勢2名が優勢かと見込まれた。まさに1ゲームは、田中選手が他を突き放す好ゲームで素点199（競技点184）を決め有利に立つ。一方の星選手は、シーズン最終戦で見せた復活劇が鳴りをひそめ点数は伸ばせず。

勝負の2ゲーム目。安定感が持ち味の松本誠司選手だが、なかなかマークを重ねられず戦線離脱。そんな中、島裕二選手・ジョー選手の2名が奮起。序盤に溜めていた脚を後半で伸ばし競技点200アップが見える展開に。関東勢は田中選手の1ゲーム目の高スコアで油断したのか、凡ミスを連発してしまう。結果、島選手がジョー選手をかわし、第1ゲーム田中選手のスコアもかわして、競技点202でファイナル進出を決めた。

島裕二選手は、昨年に引き続いての予選からの千里シリーズファイナル出場。最強の挑戦者が、連覇をかけてシーズン覇者に挑む。

選手名	第1ゲーム	第2ゲーム	ハンデ	競技点	結果
田中宏典	199	146	-15	184	
島 裕二	121	167	35	202	選出
松本誠司	139	148	-5	143	
星 健一	125	128	41	169	
ジョー・タカミ	155	142	35	190	

※ 島裕二選手がファイナルステージ進出

◆ファイナルラウンド第1戦◆

挨拶がわりのストライクラッシュで杉原先勝！

シーズン優勝杉原選手 vs 予選勝ち上がりの島裕二選手。奇しくも昨年と同じ対戦カードとなった2023年千里シリーズ。出場10回、うち優勝7回と圧倒的な勝負強さを誇る杉原選手、対する予選ラウンドから勝ち上がってきた島裕二選手は、昨年3回目の出場にして苦節30年の千里シリーズ制覇を達成した。昨年、-4 vs 42、その差46のハンデ差に泣き笑った両者。今年はその差が少し縮まって、-4 vs 35の39ピン差。杉原選手にとって、スペアだと10フレームの間に約4回相手より多く出す必要があるが、ターキー発で一気に挽回できる絶妙な差とも言える。予選ラウンドで調子を上げてきた島裕二選手に対し、予選ラウンドは敢えて肩を温存した杉原選手。ストライクマークの数が勝利に直結するこの短期決戦の勝敗やいかに。

												
杉原陽一 (シーズン優勝)	8 -	*	*	9 -	*	*	*	*	*	8 / *	-4	
	8	37	56	65	95	125	155	183	203	223		219
ハンデ込み 得点差⇒	↓40	↓17	↓12	↓12	↑10	↑31	↑52	↑62	↑74	↑86	1勝	HDCP 競技点
島裕二 (シーズン2位)	9 -	4 2	9 /	s4 5	7 1	9 -	9 -	*	8 -	7 1		35
	9	15	29	38	46	55	64	82	90	98		133
												

まずは注目の第1ゲーム。全世界が見守る中、緊張の1フレはともに右ピンを残したオープンスタートとなったものの、ここから対照的な展開に。

2-3フレでダブルを取った杉原選手は、続く4フレで10ピンタップ。これは惜しくもマークを逃したが、ここから5-9フレで怒涛の5連続ストライク。5フレで早くもハンデ差をひっくり返して相手を土俵際まで押し込んだ。いつも饒舌な島裕二選手もこれには沈黙。予選の好調さも吹き飛ばされ最後までゲームを立て直すことができずに痛恨の100ピン割れとなってしまった。杉原選手は10フレも無難にまとめ上げ、終わってみれば8ストライク1スペアの素点223（競技点219）でフィニッシュ。圧倒的なスコアで相手の機先を制した絶好の先勝となった。

◆ファイナルラウンド第2戦◆

まさに隙なし！10ピンも余裕のカバーで杉原2勝目

												
杉原陽一 (シーズン優勝)	*	7 1	9 /	9 /	*	9 /	*	9 /	*	* 9 /		-4
ハンデ込み 得点差⇒		↓ 29	↓ 27	↓ 17	↓ 17	↓ 13	↓ 3	↑ 9	↑ 12	↑ 33	↑ 44	2勝
島裕二 (シーズン2位)	6 2	s6 -	5 4	*	3 /	6 /	G 8	9 /	7 1	9 -		35
	8	14	23	43	59	69	77	94	102	111		146
												

続く第2ゲームも島裕二選手の苦戦が続く。アプローチが合わないのか、スイングにいつもの力がなく狙いが定まらない様子。1・3・5・6 フレームでヘッドピンを外してしまう。それでも杉原選手の追撃を振り切ろうと3・5フレを連続マークとして簡単には譲らない。一方の杉原選手は、1ゲーム目で魅せたストライクラッシュは一旦小休止。2フレをイージーなオープンミスとしたものの着実なマークアップで少しずつ39のハンデ差を縮めていく。

そして6フレで事件が発生する。前投でスペアを決め、なんとか踏みとどまっていた島裕二選手がここでまさかのガター投球！点数を上乗せできずに、自ら杉原選手に道を明け渡す格好となった

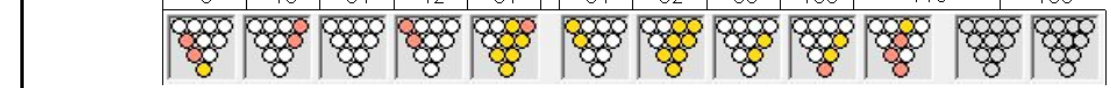
千里シリーズ巧者の杉原選手がこの機を見逃すはずもなく、フックボールでは苦とする10ピンも余裕のカバー。着実にスペア・ストライクを重ねて競技点を190まで積み上げた。島裕二選手も残り全てストライクなら、という状況ではあったが、いかんせん最後までコントロールに苦しみ、終わってみれば10フレーム中都合6フレームでヘッドピンを外す緊急事態。

結果、第2ゲームも杉原選手の勝利に。ハンデ差をものとしめない磐石のゲーム運びで早くも優勝に王手をかけた。

予選ラウンドで見た好調さがここへきて全く見られない島裕二選手。投球数を見ても、千里シリーズファイナル2ゲーム終了時点で杉原選手は31投、一方の島裕二選手は38投。さらに予選ラウンドの投球有無を考えると、島裕二選手の疲労度が心配である。

◆ファイナルラウンド第3戦◆

これぞ王者のボウリング！杉原全勝で完全優勝達成！

											
杉原陽一 (シーズン優勝)	*	*	*	9 /	6 3	*	s7 -	*	7 /	*s7 2	-4
ハンデ込み 得点差⇒	30	59	79	95	104	121	128	148	168	187	183
島裕二 (シーズン2位)	7 1	8 -	*	8 -	3 6	8 /	3 /	8 /	7 2	6 1	35
	8	16	34	42	51	64	82	99	108	115	150
											

ほぼ完璧なゲームメイクで2戦を取った杉原選手。内容でもスコアでも崩れる要素がなさそうに見える。一方の島裕二選手は、これだけの差を見せられての精神的疲労に加え、肉体的疲労も重なるとさらに厳しい戦いを強いられそうだ。

杉原選手が王手をかけた第3ゲーム。

1-3 フレでターキー発進と、絶好のスタートを切ったのはやはり杉原選手だ。1ミリも油断することなく相手を圧倒していくスタイルは、まさに王者のボウリングともいえる。島裕二選手が1-2 フレでオープンとしてしまう間に、ハンデ差も一機に捲ってしまった。

3フレをストライクとした島裕二選手。ここから繋いで繋いでと行きたいところだったが、やはりコントロールが定まらない。結果4-5フレと続けてオープンしてしまう。「ホームのフタバボウルとは全く違う。アウエーの洗礼を受けた」とは本人の談だが、予選で見せた力強い投球が決勝ラウンドでは全く見られず、常にながらの投球となってしまった。

序盤でハンデ差を捲り、後は逃げ切り体制の杉原選手は、5フレでオープン、7フレでフックが効きすぎでのスプリットと、途中思うようにスコアが伸ばせない。勝機があるとすればここと、島裕二選手が6-8フレでスペアを決め10ピン差まで食い下がった。

そして運命の第9フレーム、1投目はともに7本とし迎えた2投目。杉原選手がスペアカバーとしたのに対し、島裕二選手が痛恨のオープンフレームとなり万事休す。杉原選手が3勝目を上げた。

この結果、3連勝の杉原選手が通算8度目の千里シリーズ制覇を成し遂げた。シーズン優勝者 vs 予選通過者のジックスも、杉原選手が昨年のリベンジという形で打ち破った格好だ。

激闘を終えて…

杉原陽一 3(000)0 島裕二



同じ相手に2度は負けませんよ

杉原選手

昨年の千里シリーズはちょっとやってしまった感がありましたが、リベンジできて良かったです。まあ実力です。

昨年から取り組んでいるフォーム改造が今年ようやく安定してきて、まだまだ伸ばせそうですね。2024年も多分勝てそうです。

フタバなら逆の結果だった

島裕二選手

昨年は「目標30年連続優勝」なんて言ってしまいましたが、すいません。杉原選手が強すぎました。

ただ、こちらもマイボールが安定してきたので来年は見ていてください。もちろん会場は、私がシーズン優勝するのでフタバボウルですね。曽根はもはやアウェーなんです。



千里シリーズ過去の戦績

	1989	松本誠司	4(○○○●○)	1	松本昌士	
	1990	奥山満夫	4(●●●○○○)	3	下永義久	
	1991	松本誠司	4(○○●○○)	1	島裕二	
※1	1992	松本誠司	4(○○○○)	0	島裕二	
	1993	松本誠司	4(○○○○)	0	田中寿美子	
	1994	松本誠司	4(●○●○○○)	2	島和男	
	1995	白木建太郎	4(●○○○○)	1	田中久	
	1996	野村正明	4(○○●●△○●○)	3	松本誠司	
	1997	杉原陽一	4(○○○○)	0	松本香代	
	1998	松本誠司	4(○●○●○○)	2	白木建太郎	
	1999	松本誠司	4(○○○○)	0	杉原陽一	
	2000	白木建太郎	4(○○○○)	0	岩田修一	
	2001	杉原陽一	4(○●●○●○○)	3	ロバート・K	
	2002	白木建太郎	4(●●○○○●○)	3	松本誠司	
※2	2003	松本昌士	3(○●○○)	1	松本誠司	◆
	2004	◆ 白木建太郎	3(○●●○△○)	2	松本昌士	
	2005	松本昌士	3(○○○)	0	白木建太郎	◆
	2006	岩田修一	3(●●○○○)	2	松本誠司	◆
	2007	◆ 杉原陽一	3(○●○●○)	2	奥山満夫	
	2008	奥山満夫	3(○●○○)	1	島和男.com	◆
	2009	◆ 杉原陽一	3(●○○○)	1	奥山満夫	
	2010	白木建太郎	3(○○●○)	1	杉原陽一	◆
	2011	◆ 松本誠司	3(○○○)	0	藤原聡	
	2012	馬場毅	3(●○●○○)	2	白木建太郎	◆
	2013	杉原陽一	3(○●○○)	1	馬場毅	◆
	2014	杉原陽一	3(○●●○△○)	2	馬場毅	◆
	2015	城戸秀行	3(○○○)	0	白木建太郎	◆
	2016	杉原陽一	3(●○○○)	1	松本誠司	◆
	2017	◆ 島和男.com	3(●○○●○)	2	ジョー・タカミ	
	2018	田中宏典	3(○●○○)	1	白木建太郎	◆
	2019	白木建太郎	3(○●○●○)	2	ジョー・タカミ	◆
	2020	松本誠司	3(○●●○○)	2	田中宏典	◆
	2021	城戸秀行	3(○○○)	0	白木建太郎	◆
	2022	島裕二	3(●○○○)	1	杉原陽一	◆
	2023	◆ 杉原陽一	3(○○○)	0	島裕二	◆

◆はレギュラーシーズン優勝

※1 島裕二が前後期制覇をしているため、総合優勝は島裕二と記録。
特別企画の「千里G1クライマックス」として開催。

※2 2003年以降、千里シリーズの実施方式が変更。3勝先取で優勝。